

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成24年1月19日 (2012.1.19)

【公表番号】特表2011-505140(P2011-505140A)

【公表日】平成23年2月24日 (2011.2.24)

【年通号数】公開・登録公報2011-008

【出願番号】特願2010-536117(P2010-536117)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

C 1 2 N 1/15 (2006.01)

C 1 2 N 1/19 (2006.01)

C 1 2 N 1/21 (2006.01)

C 1 2 N 5/10 (2006.01)

C 1 2 P 21/02 (2006.01)

A 6 1 K 38/46 (2006.01)

A 6 1 P 7/02 (2006.01)

【 F I 】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 0 7 K 14/47

C 1 2 N 1/15

C 1 2 N 1/19

C 1 2 N 1/21

C 1 2 N 5/00 1 0 1

C 1 2 P 21/02 C

A 6 1 K 37/54

A 6 1 P 7/02

【手続補正書】

【提出日】平成23年11月24日 (2011.11.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

a) 単一の N 末端クリングルドメインであって、該クリングルドメイン内の最後の 4 個のアミノ酸残基が配列番号：2 の 9 1 ~ 9 4 位のアミノ酸残基と同一である単一の N 末端クリングルドメイン、および

b) C 末端ドメイン活性化部位およびセリンプロテアーゼドメインを有するポリペプチドをコードするヌクレオチド配列を含み、かつ、

該ポリペプチドが固定化リシンに結合し、該コードされるポリペプチドが配列番号：2 に示される配列に少なくとも 9 5 % 同一である、ことを特徴とするポリヌクレオチド。

【請求項 2】

コードされるポリペプチドが配列番号：2 に示される配列を含む、請求項 1 記載のポリヌクレオチド。

【請求項 3】

ポリヌクレオチドのヌクレオチド配列が配列番号：1 に示される配列もしくはその縮重

バリエーションである請求項 1 記載のポリヌクレオチド。

【請求項 4】

コードされるポリペプチドがミニ - プラスミンのフィブリノーゲンに対する結合親和性より低いフィブリノーゲンに対する結合親和性を示す請求項 1 記載のポリヌクレオチド。

【請求項 5】

コードされるポリペプチドがミニ - プラスミンの部分的に切断されたフィブリンに対する結合親和性より高い部分的に切断されたフィブリンに対する結合親和性を示す請求項 1 記載のポリヌクレオチド。

【請求項 6】

コードされるポリペプチドが参照ポリペプチドと比較した場合に減少した免疫原性を有し、該参照ポリペプチドがポリペプチドの一次アミノ酸配列と同一の一次アミノ酸配列を有するが、ただし、参照ポリペプチドの単一の N 末端クリングルドメインの最後の 4 個のアミノ酸残基が配列番号：2 の 91 ~ 94 位のアミノ酸残基と同一ではない請求項 1 記載のポリヌクレオチド。

【請求項 7】

請求項 1 記載のポリヌクレオチドを含んでなる発現ベクター。

【請求項 8】

請求項 7 記載の発現ベクターを含んでなる細胞。

【請求項 9】

コードされるポリペプチドのアミノ酸残基 2 ~ 9 が、配列番号：2 の 2 ~ 9 位のアミノ酸残基と同一である、請求項 1 記載のポリヌクレオチド。

【請求項 10】

コードされるポリペプチドが配列番号：2 に示されるアミノ酸配列に少なくとも 95 % 同一である、請求項 1 記載のポリペプチド。

【請求項 11】

請求項 8 記載の細胞におけるポリペプチドを発現せしめる工程を含むポリペプチドの製造方法。